

2020年8月24日

長期的な土地利用の在り方に関する検討会 耕地への植林に関する一考察

金沢大学人間社会研究域人間科学系
(人間社会学域地域創造学類)

林 直樹



無住集落における土地利用調査

調査の概要

- ・調査対象：秋田県の無住集落62地区、家屋や土地の状態
 - ・佐藤(1997)に掲載された集落から次の条件のすべてを満たすものを抽出。
 - ・最盛期の戸数が5戸以上である。
 - ・ダム建設を主因として無住化した集落ではない。
 - ・営林事業のために形成された集落ではない。
- ・調査時期：2015年秋
- ・主な実施者：浅原昭生・林直樹
- ・調査方法：目視(道路から大きく離れた部分は対象外)

佐藤晃之輔『秋田・消えた村の記録』無明舎出版、1997

(調査結果の詳細は以下に収録)

(1) 林直樹・関口達也・小山元孝・松田晋・佐々木哲平・浅原昭生『将来的な再居住化の可能性を残した無居住化に関する基礎的研究—農村再生に向けて—(平成27年度国土政策関係研究支援事業研究成果報告書)』2016

(2) 浅原昭生・林直樹『秋田・廃村の記録—人口減少時代を迎えて』秋田文化出版、2016



無住集落でも林業は健在



- ・由利本荘市「砂子」(まなご)
- ・1973年無住化(佐藤、1997)



- ・山本郡藤里町「奥小比内」(おくこびない)
- ・1972年無住化(佐藤、1997)

スライドの写真はすべて林撮影。

佐藤晃之輔『秋田・消えた村の記録』無明舎出版、1997



耕地への植林(無住集落調査から)



- ・北秋田市「露熊」(つゆくま)
- ・1970年無住化(佐藤、1997)
- ・耕地への植林の一例

- ・耕地への植林は**特段珍しいものではない**。
- ・ふつうの山林も含め、**著しい表土侵食などは見られなかった**。
- ・秋田県は**スギ**が多いことに注意。

佐藤晃之輔『秋田・消えた村の記録』無明舎出版、1997



林業中心と思われる無住集落



- ・鹿角市「小水沢」(こみずさわ)
- ・1968年無住化(佐藤、1997)
- ・苗木(右上の写真)
- ・耕地への植林の例(左下の写真)

佐藤晃之輔『秋田・消えた村の記録』無明舎出版、1997



林業と農業を一体的に考える

- ・「守ることが現実的な人工林」は**守る**。
- ・「守ることが現実的な耕地」は**守る**。



その上で

- ・「急傾斜地の人工林」には「天然林に変更」という**選択肢**を。
- ・「山間地の耕作放棄地」には「植林またはそのまま遷移」という**選択肢**を。

(スケール感)

- ・山間農業地域の耕地面積*: 491千ha
- ・傾斜17.5度以上の人工林**: 1010千ha
- ・傾斜20度以上の人工林**: 206千ha

* 2000年世界農林業センサスの第9巻のデータから計算。

** 環境省の自然環境保全基礎調査(第5回基礎調査:植生3次メッシュデータ)、国土数値情報の標高・傾斜度メッシュ(昭和56年、日本測地系)から筆者試算。自然度6を「人工林」、区画単位の傾斜は最大傾斜と最小傾斜の間、1区画の面積は100haとした。

